

変形性股関節症

Pain of Hip Osteoarthritis.

加藤 浩*

Hiroshi KATO, RPT, PhD

大平 高正**

Takamasa OHIRA, RPT

今田 健**

Ken IMADA, RPT

奥村 晃司***

Koji OKUMURA, RPT

木藤 伸宏***

Nobuhiro KITO, RPT

key words : 変形性股関節症, 運動時痛, 歩行時痛, 関節の力学的安定化, 最適な筋出力バランス

はじめに

変形性股関節症（以下、変股症）は、関節軟骨の退行変性や摩耗により関節の破壊や骨の変形を来す進行性の変性疾患である。特に日本においては、その病変が基礎疾患に続発して起こる二次性の変股症が圧倒的多数を占める。発症は中年以降で、加齢に伴い慢性的に病変が進展するのが特徴である¹⁾。

二次性変股症の発症要因は、大きく2つに分類できる。1つは先天性股関節脱臼や臼蓋形成不全など関節構造の力学的な側面に起因するもの、もう1つは関節リウマチなど滑膜炎に伴う関節軟骨の質的な変化に起因するものである。両者の発症比率をみると前者が圧倒的に高く、理学療法の治療戦略として関節の力学的安定化は重要なキーワードである。

変股症の障害構造の特徴として日本整形外科学会は、股関節機能を①疼痛、②可動域、③歩行能力、④日常生活動作の4つに分類し評価している。これは換言すれば、荷重関節である股関節に求め

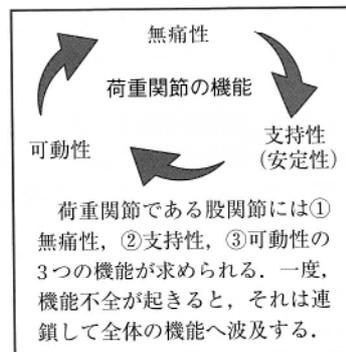


図1 股関節に求められる3つの機能

られる日常生活活動機能は、①無痛性、②可動性、③支持性（安定性）の3つであると言える（図1）。そして、これら諸機能は単独で存在しているのではなく、相互に強く関連し合い、1つの機能低下が連鎖して荷重関節全体としての機能不全に波及する。

本稿では、特集のテーマである“痛み”に焦点を絞り、変股症における痛みの臨床症状から、理学療法評価、そして具体的なプログラムについて述べる。

変股症の痛みの特徴と原因

1 経年的にみた痛みの特徴

変股症における痛みの初発症状は、まず長時間

*吉備国際大学保健科学部理学療法学科
(〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8)

**吉備国際大学大学院保健科学研究科

***川島整形外科病院リハビリテーション科